

会派名 志翔会 支出調書

代表者	経理責任者	起案者
		

区分	事由	費目金額				小計
1	調査研究費	交通費		旅費		自動車燃料費
		資料作成費		調査委託費		振込料
2	研修費 東北24研究会参加(青森市)	会場費		講師謝金		出席者負担金・会費
		交通費		旅費	110,680	自動車燃料費
		資料作成費		食糧費		振込料
3	広報費	会場費		交通費		自動車燃料費
		資料作成費		広報誌(紙)		報告書等印刷費
		送料(折込料含む)		ウェブページ掲載代		茶菓子代
		振込料				
4	広聴費	会場費		交通費		自動車燃料費
		資料作成費		茶菓子代		振込料
5	要請・陳情活動費	交通費		旅費		自動車燃料費
		資料作成費		振込料		
6	会議費	会場費		交通費		自動車燃料費
		資料作成費		振込料		
7	資料作成費	印刷製本費		翻訳料		筆耕料
		振込料				
8	資料購入費	法規追録代		参考図書代		新聞(日刊紙)購読料
		雑誌等購読料		有料データベース等利用料		振込料
9	人件費	賃金		社会保険料等		振込料
10	事務所費	備品購入費		事務機器等リース代		消耗品等事務費
		印刷代		振込料		配送手数料
11	通信運搬・自動車燃料費	電話料等(按分)		郵便料等		自動車燃料費(按分)
		その他				
使用者	佐藤 徹哉 	支出年月日	令和元 年 12 月 25 日	現金出納簿 支出番号	3	合計 110,680 円

出張（調査等）申請書兼旅費請求書

支出番号 3

会派会長様

申請代表者氏名 佐藤 徹哉



下記の用務により出張（調査等）したいので申請するとともに、旅費を請求いたします。

記

請求金額	110,680 円（1人あたり 55,340円） ※別紙、旅費計算書のとおり	
目的	東北24研究会 令和元年度第1回研究会 参加	
用務先	青森市役所 ワ・ラッセ・アウガ	
内容	<ul style="list-style-type: none"> 国の防災、減災対策について 台風19号等の災害について ・ 各地域の特徴的な災害について 青森市中央市街地活性化事業「ワ・ラッセ・アウガ」について 	
期間	令和2年 1月 31日 ~ 令和2年 2月 1日（1泊2日）	
行程	別紙のとおり	
出張（調査等）者氏名	川前 光徳	
	佐藤 徹哉	
特記事項	なし	

上記のとおり出張（調査等）を許可します。

会派会長	経理責任者		受理日	令和元年12月25日
			許可日	令和元年12月25日
			支出日	令和元年12月25日

上記金額を受領しました。

令和元年12月25日

申請代表者氏名

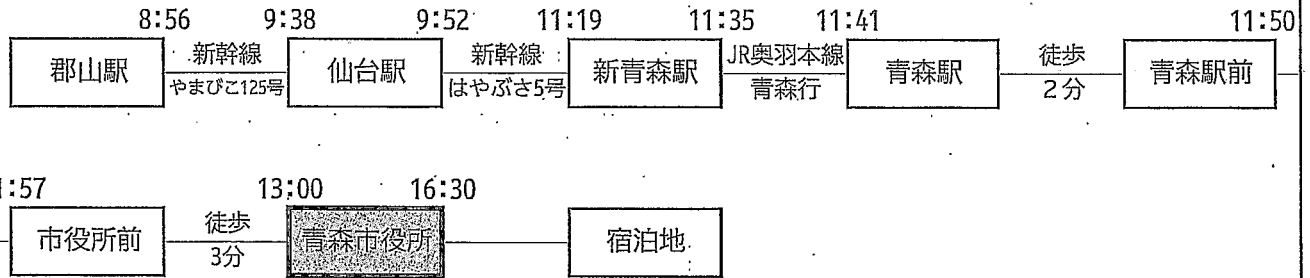
佐藤 徹哉



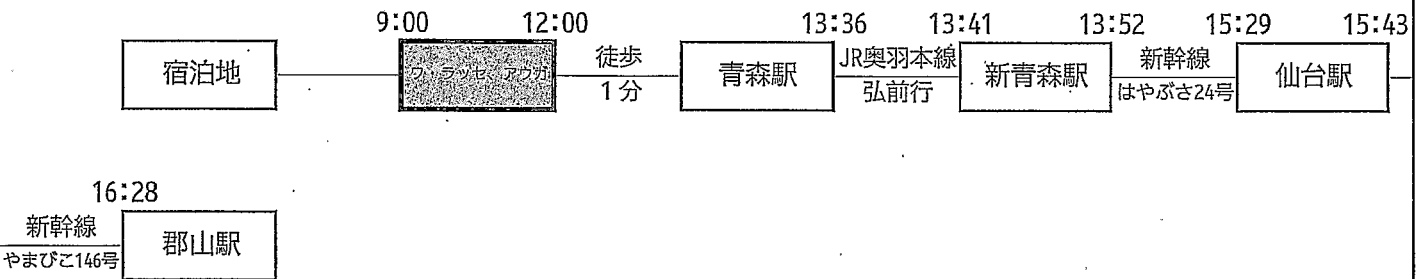
令和元年度 志翔会 行政調査行程表

1 行程

□ 1日目：1月31日（金）



□ 2日目：2月1日（土）



2 人員 2名

川前 光徳 議員
佐藤 徹哉 議員

3 視察内容

- 令和2年1月31日（金）
【東北24研究会】
○国の防災減災対策について
○台風19号等の災害について
○各地域の特徴的な災害について
- 令和2年2月1日（土）
【東北24研究会】
○青森市中央市街地活性化事業、
ワ・ラッセ、アウガ

4 事務局連絡先・会場

- 【事務局】東北24研究会青森市議会世話人
青森市議会議員 木戸 喜美男
青森県青森市中央一丁目22-5
TEL 017-734-5741
- 【会場】青森市役所
青森県青森市中央一丁目22-5
ワ・ラッセ
青森県青森市安方1-1-1
アウガ
青森県青森市新町1-3-7

5 その他

行政調査旅費計算書

会派名 : 志翔会
 参加議員 : 川前 光徳、佐藤 徹哉
 日程 : 令和2年1月31日(金)～2月1日(土)
 行先 : 青森市役所(青森県青森市中央一丁目22-5)

1月31日	郡山駅	新幹線 125.1	仙台駅	新幹線 361.9	新青森駅	奥羽本線 3.9	青森駅											
運賃	8,030																8,030	
急行料金	9,240																9,240	
席種	グリーン		グリーン														0	
実費																	0	

2月1日	青森駅	JR奥羽本線 3.9	新青森駅	新幹線 361.9	仙台駅	新幹線 125.1	郡山駅											
運賃	8,030																8,030	
急行料金	9,240																9,240	
席種	グリーン		グリーン														0	
実費																	0	

交通費	34,540		34,540
日当	3,000 ×	2日 =	6,000
宿泊費	14,800 ×	1泊 =	14,800
合計			55,340 円

× 2名 = 110,680 円













出張（調査等）報告書兼旅費精算書

支出番号 3

会派会長様



下記のとおり出張（調査等）したので報告するとともに、受領した旅費を精算（返納）いたします。

出張（調査等）議員名

・川前 光徳			
・佐藤 徹哉			
			
			
			
			

記

期 間	R2年 1月 31日 ~ R2年 2月 1日（1泊 2日）					
目 的	行政調査（東北連携中核市議会議員24研究会）					
用 務 先	青森市役所					
	ワ・ラッセ・アウガ					
行 程	別紙行程表のとおり					
内容及び成果	別紙報告書のとおり					
旅 費 精 算	受領額	110,680 円	精算額	110,680 円	返納額	0 円

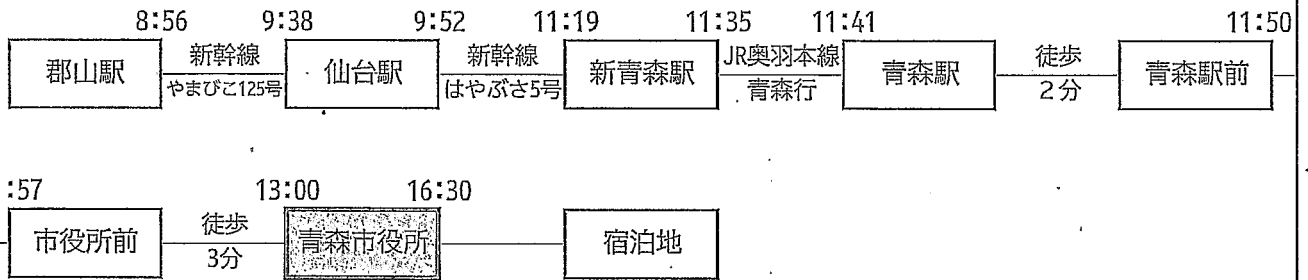
上記のとおり出張（調査等）の内容を確認するとともに、精算を受けました。						
会派会長	経理責任者			受 理 日	令和2年2月14日	
				確 認 日	令和2年2月14日	
				精 算 日	令和2年2月14日	

※添付書類：行程表、調査等先説明資料、要請・陳情書（写）、調査等先の名刺、写真、成果報告書他

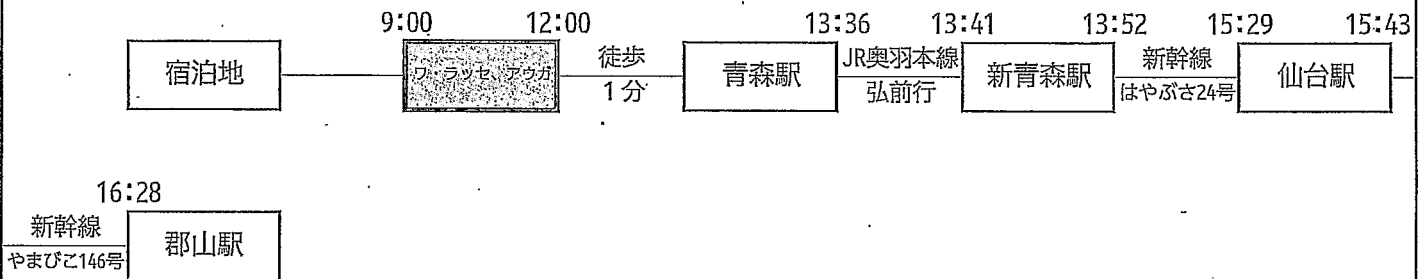
令和元年度 志翔会 行政調査行程表

1 行程

□ 1日目：1月31日（金）



□ 2日目：2月1日（土）



2 人員 2名

川前 光徳 議員
佐藤 徹哉 議員

3 視察内容

- 令和2年1月31日（金）
【東北24研究会】
○国の防災減災対策について
○台風19号等の災害について
○各地域の特徴的な災害について
- 令和2年2月1日（土）
【東北24研究会】
○青森市中央市街地活性化事業、
ワ・ラッセ、アウガ

4 事務局連絡先・会場

- 【事務局】東北24研究会青森市議会世話人
青森市議会議員 木戸 喜美男
青森県青森市中央一丁目22-5
TEL 017-734-5741
- 【会場】青森市役所
青森県青森市中央一丁目22-5
ワ・ラッセ
青森県青森市安方1-1-1
アウガ
青森県青森市新町1-3-7

5 その他

報告書

東北連携中核市議会議員24研究会 研修会・青森大会

「東北の復興なくして日本の再生なし」の理念の元、各市議会・各議員が切磋琢磨しながら協力連携していくべく、東北6県の県庁所在地及び、中核市の議長の呼びかけで発足した「東北連携中核市議会議員24研究会」の研修会が青森市で開催された。

本市からは新政会の栗原議員、吉田議員、志翔会の川前会長、私佐藤の4名が参加した。

開催に先立ち、世話人会が行われ、予定していた八重田浄化センターでの融雪処理状況の視察は暖冬の影響で現在稼働しておらず、今回は見送りとし、研修の時間を延長することなどを確認した。

青森市議会藤田議員により開会宣言がなされ、代表世話人である仙台市議会菊地議員、地元世話人である青森市議会木戸議員による主催者挨拶の後、来賓である小野寺青森市長、長谷川市議会議長より歓迎のご挨拶をいただいた。

研修は3部構成で行われ、国土交通省東北地方整備局青森港湾国道事務所防災課の澤田課長による防災セミナーの後、台風19号等の災害について、被害状況及び今後の対応の報告が各自治体の代表からなされ、本市代表は私、佐藤が務めた。

施設見学は見送られたものの、青森の雪害対策について青森市都市整備部道路維持課雪対策室小田室長より資料に基づく説明がなされた。

翌日、2月1日は青森市中心市街地活性化事業、青森市文化観光交流施設「ワ・ラッセ」の現地視察を行った。

次回開催地を仙台市とすることを決め、本研修会は終了した。

佐藤 徹哉

東北連携中核市議会議員24研究会 研修会・青森大会実施要綱

と き 令和2年1月31日13時30分～2月1日12時まで

ところ 青森市議会 議事堂第1・2委員会室

会 費 2,000円 (運営費：通信費・資料及び資料作成費等)

受付 13時00分～ (参加費：2千円、懇親会会費5千円徴収)

・各市世話人打ち合わせ会議 13時15分～ (議員控室)

研修会次第

1. 開会 13時30分～

2. 主催者挨拶

- ・代表世話人 仙台市議会議員 菊地 崇良^{たかよし}
- ・地元世話人挨拶 青森市議会議員 木戸 喜美男^{きみお}

3. 来賓あいさつ

- ・小野寺 晃彦 青森市長
- ・長谷川 章悦 青森市議会議長



4. 研修会 (13時45分～)

1) 国の防災減災対策について 13時45分～14時15分

国土交通省 東北地方整備局

青森港湾国道事務所 防災課 課長 澤田 俊樹^{さわだ としき}

2) 台風19号等の災害について 14時15分～14時45分

被害状況、現状報告及び今後の対応について

各自治体からの報告(いわき市・郡山市・仙台市)

3) 青森市における雪害対策について 14時45分～15時00分

青森市都市整備部

道路維持課 雪対策室 室長 小田 一彦^{おだ かずひこ}

5. 意見交換会 15時00分～15時30分

6. 施設見学 16時00分～17時00分 (道路維持課対応)

- 1) 青森港本港地区浜町緑地
- 2) 積雪・融雪処理槽(八重田浄化センター)

7. 研修会終了

8. 懇親会 18時00分～ (会費：5千円)(場所：受付時配布)


【2月1日(土)】 行政視察予定 (希望者)

9～12時(青森市中心市街地活性化事業の現在)

青森市議会議員

木戸 喜美男

きみお



〒038-0042
青森市大字新城字福田7-1
電話
携帯




NIPPON
ここだけ
青森市
the one, the only
Aomori City

青森市議会 副議長
藤田 誠

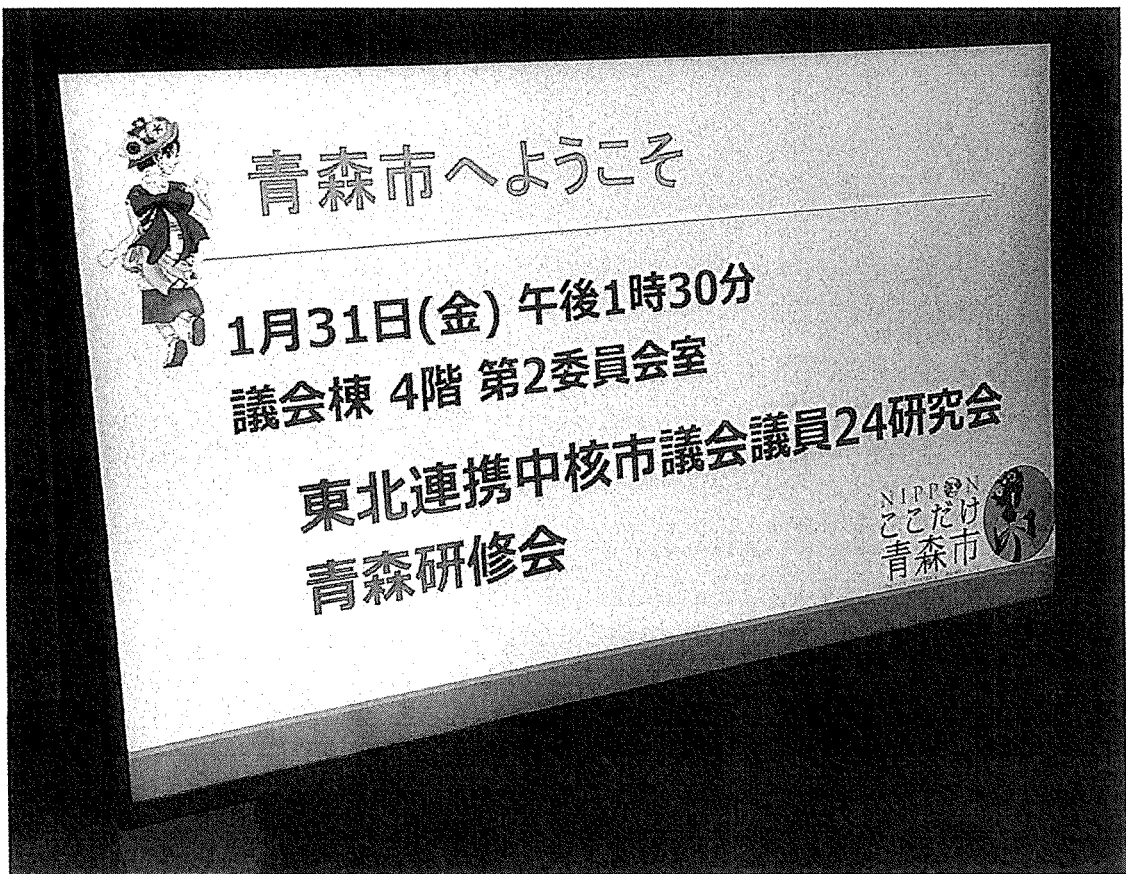
〒030-8555 青森市中央一丁目22番5号
直通電話
携帯電話

やまもと

山本 たけとも

青森市議会議員・防災士





会派名

志翔会

支出調書

代表者

経理責任者

起案者




区分	事由	費目				金額		小計
1	調査研究費	交通費		旅費		自動車燃料費		
		資料作成費		調査委託費		振込料		
2	研修費 東北SDGs未来都市サミット・シンポジウム参加(出席)	会場費		講師謝金		出席者負担金・会費		104,580
		交通費		旅費	104,580			
		資料作成費		食糧費		振込料		
3	広報費	会場費		交通費		自動車燃料費		
		資料作成費		広報誌(紙)		報告書等印刷費		
		送料(折込料含む)		ウェブページ掲載代		茶菓子代		
		振込料						
4	広聴費	会場費		交通費		自動車燃料費		
		資料作成費		茶菓子代		振込料		
5	要請・陳情活動費	交通費		旅費		自動車燃料費		
		資料作成費		振込料				
6	会議費	会場費		交通費		自動車燃料費		
		資料作成費		振込料				
7	資料作成費	印刷製本費		翻訳料		筆耕料		
		振込料						
8	資料購入費	法規追録代		参考図書代		新聞(日刊紙)購読料		
		雑誌等購読料		有料データベース等利用料		振込料		
9	人件費	賃金		社会保険料等		振込料		
10	事務所費	備品購入費		事務機器等リース代		消耗品等事務費		
		印刷代		振込料		配送手数料		
11	通信運搬・自動車燃料費	電話料等(按分)		郵便料等		自動車燃料費(按分)		
		その他						
使用者	大城 宏之	提出年月日	令和2年 1 月 14 日	現金出納簿 支出番号	4	合計	104,580 円	

出張（調査等）申請書兼旅費請求書




支出番号 4

会派会長様

申請代表者氏名 大城 宏之 

下記の用務により出張（調査等）したいので申請するとともに、旅費を請求いたします。
記

請求金額	104,580円（3名） （1人あたり 34,860円） ※別紙、旅費計算書のとおり	
目的	東北SDGs未来都市サミット・シンポジウム参加（出席）	
用務先	秋田県仙北市角館 <u>仙北市角館交流センター</u>	
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・仙北市角館地区視察 13:00～14:30 ・サミット出席 15:00～16:45 ・シンポジウム出席 17:00～19:00 	
期間	令和2年 1月 16日 ～ 令和2年 1月 16日（泊日）	
行程	別紙行程表の通り	
出張（調査等）者氏名	・大城 宏之	・
	・佐藤 栄作	・
	・村上 晃一	・
	・	・
	・	・
特記事項		

上記のとおり出張（調査等）を許可します。					
会派会長	経理責任者			受理日	令和2年 1月 <u>14</u> 日
				許可日	令和2年 1月 <u>14</u> 日
				支出日	令和2年 1月 <u>14</u> 日

上記金額を受領しました。		
令和2年 1月 <u>14</u> 日	申請代表者氏名 大城 宏之	

行政調査旅費計算書

会派名 : 志翔会
 参加議員 : 大城 宏之、佐藤 栄作、村上 晃一
 日程 : 令和2年1月16日
 行先 : 角館交流センター (秋田県仙北市角館町中菅沢77-30)

1月16日

	郡山駅	新幹線 125.1	仙台駅	新幹線 242.3	角館駅	新幹線 242.3	仙台駅	新幹線 125.1	郡山駅						
運賃	6,380		6,380		6,380		6,380								12,760
急行料金	9,550		9,550		9,550		9,550								19,100
席種	グリーン		グリーン		グリーン		グリーン								0
実費															0

運賃															0
急行料金															0
席種															0
実費															0

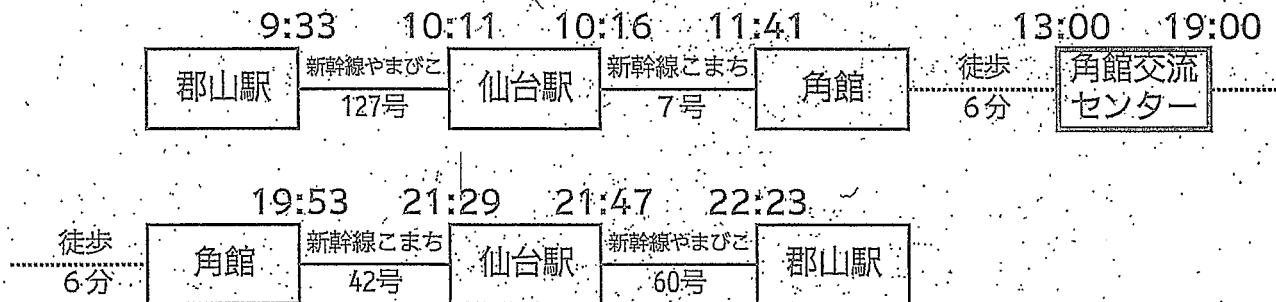
交通費 31,860 円 × 1日 = 31,860 円
 日当 3,000 円 × 1日 = 3,000 円
 合計 34,860 円 × 3名 = 104,580 円

令和元年度 志翔会 行政調査行程表

1 行程

□ 令和2年1月16日 (木)

東北SDGs未来都市サミット・シンポジウム



2 人員 3人

大城 宏之 議員
佐藤 栄作 議員
村上 晃一 議員

3 調査内容

東北SDGs未来都市サミット・シンポジウム

- ・視察 13:00~14:30
- ・サミット 15:00~16:45
- ・シンポジウム 17:00~19:00

4 事務局連絡先・会場

仙北市地方創生・総合戦略室
〒014-1201
秋田県仙北市田沢湖生保内字宮ノ後30
電話 0187-43-3315
FAX 0187-43-1300

5 その他



東北SDGs未来都市サミット シンポジウム in 仙北市

日時：2020年1月16日(木) 17:00-19:00

会場：角館交流センター（秋田県仙北市角館町中菅沢77-30）

対象：持続可能な地域づくりに関心がある方、SDGsを学びたい方

入場
無料

東北地方の5都市の連携による「東北SDGs未来都市サミット」。昨年度の東松島市に続き、2回目となる今年度は、仙北市でシンポジウムを開催します。各都市の首長を迎え、パネルディスカッションや基調講演を通して、持続可能な地域づくりとは何か、一緒に考えてみませんか？

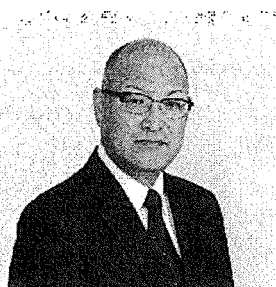
「誰一人取り残さない」をキーワードにした世界共通の目標SDGsを達成するために、私たちができることはたくさんあります！



陸前高田市長
戸羽 太



東松島市長
渥美 巖



仙北市長
門脇 光浩



飯豊町長
後藤 幸平

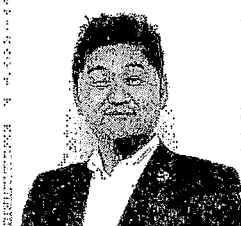


郡山市長
品川 萬里



基調講演 『世界を変える準備はいいか？～SDGsによる地域活性化～』
久米川 華穂 さん 日本青年会議所 少年少女国連大使

秋田県大仙市立平和中学校2年生。2019年7～8月、スイス（ジュネーブ）の国連欧州本部やスウェーデンを訪問し、10日間の研修を通して最先端のSDGsに触れる。帰国後、地元秋田で彼女なりのSDGsに積極的に取り組み、独自の視点で普及活動に尽力している。



基調講演 『SDGsカードゲームに学ぶ持続可能な地域づくりについて』
今田 裕美 氏 「SDGs de 地方創生」公認ファシリテーター

株式会社CSRインテグレーション代表取締役。山形県在住。SDGsを「すべての人や組織が持続的に成長・発展していくためのツール」と捉え、企業や自治体の社会課題の解決をサポートしている。英国CMI認定サステナビリティCSRプラクティショナー。

【主催】東北SDGs未来都市サミット

（岩手県陸前高田市、宮城県東松島市、秋田県仙北市、山形県飯豊町、福島県郡山市）

【問合せ/申込先】仙北市 地方創生・総合戦略室（秋田県仙北市田沢湖生保内字宮ノ後30）

☎ 0187-43-3315 FAX 0187-43-1300 E-Mail sousei@city.semboku.akita.jp



仙北市は、国連で採択された17の「持続可能な開発目標・SDGs（エス・ディー・ジーズ）」を積極的に推進する自治体の一つとして、2018年6月に「SDGs未来都市」として選定され、同じく東北地方でSDGs未来都市に選定された宮城県東松島市、山形県飯豊町と「東北SDGs未来都市サミット」を発足しました。
2019年度、新たにSDGs未来都市に選定された岩手県陸前高田市および福島県郡山市を加え、東北5都市連携によるシンポジウムを仙北市で開催します。

東北SDGs未来都市サミット・シンポジウム in 仙北市

日時：2020年1月16日（木）17:00～19:00

場所：角館交流センター 多目的ホール

プログラム

- 17:00 【開会挨拶】 開催都市 仙北市長 門脇 光浩 / 仙北市議会議長 青柳 宗五郎
- 17:05～ 【サミット報告】 仙北市長 門脇 光浩
- 17:10～ 【基調講演】 「世界を変える準備はいいか？～SDGsによる地域活性化～」
久米川 華穂 さん 日本青年会議所 少年少女国連大使
- 17:30～ 【基調講演】 「SDGsカードゲームに学ぶ持続可能な地域づくりについて」
今田 裕美 氏 「SDGs de 地方創生」公認ファシリテーター
- 17:50～ 【パネルディスカッション】 テーマ 「SDGs・持続可能なまちづくり」
コーディネーター：仙北市長 門脇 光浩
パネラー：岩手県陸前高田市 戸羽 太
宮城県東松島市長 渥美 巖
山形県飯豊町長 後藤 幸平
福島県郡山市長 品川 萬里
- 18:50～ 【東北SDGs未来都市サミット宣言】
- 18:55 【閉会挨拶】 次回開催都市 山形県飯豊町長 後藤 幸平

【申込方法】

①お名前、②人数、③連絡先、④在住市町村を下記申込先へ電話、メール、FAX等でお知らせください。 ※1/15(水)17:00締切

[問合せ/申込先] 仙北市 地方創生・総合戦略室

TEL：0187-43-3315 FAX：0187-43-1300

E-mail：sousei@city.semboku.akita.jp

東北 SDGs 未来都市サミット・シンポジウム in 仙北市

開催概要

【参加自治体】

陸前高田市、東松島市、飯豊町、郡山市、仙北市

【目的】

SDGs 未来都市の選定を受けた東北の自治体が連携を密にし、各都市の取組について情報交換することによって、都市連携の相乗効果を生み出すとともに、SDGs の普及啓発の機会とする。

また、全国の自治体連携のモデルとして、東北から SDGs を推進・発信し、持続可能なまちづくりを加速化することを目的とする。

【概要】

- ✓ 各首長および事務担当者等による情報交換の場（サミット）を開催し、各都市の取組を紹介、各首長による今後の方針等についての発言の場を設け、意見交換する。
- ✓ 一般公開のシンポジウムを開催し、各都市の取組の紹介等、市民等に対して SDGs の普及啓発を図る。
- ✓ サミット・シンポジウムは、各都市持ち回りで開催する。開催都市がその回のサミットの運営母体として内容を企画し、他都市の意見を踏まえて実施する。実施に当たっては、開催都市の創意工夫を尊重することとし、他のイベントとの同時開催を可とする。
- ✓ 主催は、「東北 SDGs 未来都市サミット」とし、告知媒体には参加自治体名を明記する。なお、開催通知などの事務文書の発出に当たっては、開催都市の首長名による発出を基本とし、内容に応じて各都市単位での発出または参加自治体連名による発出を可能とする。
- ✓ サミット・シンポジウム開催に向けた打合せや情報共有の場として、必要に応じて担当者レベルの連絡会議を開く。

【開催日】 令和2年1月16日（木）

【場所】 角館交流センター

（〒014-0368 秋田県仙北市角館町中菅沢 77-30 電話 0187-54-1003）

【スケジュール】

	時間	場所	内容	移動手手段 他
			※()内は予定時間分	
視察 13:00～ (角館地内)	13:00	角館交流センター 第1研修室	集合・名刺交換(10)	
	13:10	出発	移動(10)	市バス5分
	13:20～13:50	新潮社記念文学館	視察(30)、	
	13:50	出発	移動(10)	市バス5分
	14:00～14:30	角館樺細工伝承館	視察(30)	
	14:30	出発	移動(10)	市バス5分
	サミット 15:00～ (角館交流センター 第1研修室)	14:40～14:55	角館交流センター着	休憩・名刺交換(10)
15:00～15:40		第1研修室	取組紹介(40)	
15:40～16:00			気候非常事態宣言提案(20)	
16:00～16:20			サミット宣言内容確認(20)	
16:20～16:30			その他(10)	
16:30～16:45			マスコミ取材(15)	
16:45～16:55		多目的ホールへ	移動・パネル展示視察	徒歩1分
シンポジウム 17:00～ (角館交流センター 多目的ホール)	17:00～	多目的ホール ステージ	開会あいさつ(仙北市長・議長)(6)	
	17:06～17:10		サミット報告(仙北市長)(4)	
	17:10～17:30		基調講演 久米川華穂(20)	
	17:30～17:50		基調講演 今田裕美(20)	
	17:50～18:50		パネルディスカッション(60)	
	18:50～18:55		共同宣言(5)	
	18:55～19:00		閉会あいさつ(飯豊町長)(5)	

令和元年 12 月 13 日
仙北市地方創生・総合戦略室

	19:00~19:05		写真撮影(5)	
	19:10~	あきた芸術村へ	移動(15)	あきた芸術村のバス又は各自
歓迎レセプション 19:30~ (あきた芸術村 宿泊棟内 宴会場 きたうら)	19:30~21:00	あきた芸術村 温泉ゆぽぽ (〒014-1192 秋田県仙北市田沢湖卒田字早稲田 430 電話 0187-44-3333)	懇親・交流	

※ 視察は参加自由とする。

※ 首長サミットは、各首長および担当職員の参加を必須とし、議員およびその他随行の参加は自由（オブザーバー扱い）とする。













出張（調査等）報告書兼旅費精算書

支出番号 4

会派会長様

下記のとおり出張（調査等）したので報告するとともに、受領した旅費を精算（返納）いたします。




出張（調査等）議員名

・大城 宏之		・	
・佐藤 栄作		・	
・村上 晃一		・	
・		・	
・		・	
・		・	

記

期 間	令和2年 1月 16 日 ~ 令和2年 1月 16 日 (泊 日)				
目 的	東北SDGs未来都市サミット・シンポジウム参加 (出席)				
用 務 先	秋田県仙北市角館地区 <u>仙北市角館交流センター</u>				
行 程	別紙行程表のとおり				
内容及び成果	別紙報告書のとおり				
旅費精算	受領額	104,580 円	精算額	104,580 円	返納額 <u>104,580 円</u>

上記のとおり出張（調査等）の内容を確認するとともに、精算を受けました。

会派会長	経理責任者		受 理 日	令和2年 1 月 3 / 日
			確 認 日	令和2年 1 月 3 / 日
			精 算 日	令和2年 1 月 3 / 日

※添付書類：行程表、調査等先説明資料、要請・陳情書（写）、調査等先の名刺、写真、成果報告書他

令和元年度 志翔会 行政調査行程表

1 行程

□ 令和2年1月16日 (木)

東北SDGs未来都市サミット・シンポジウム



2 人員 3人

大城 宏之 議員
佐藤 栄作 議員
村上 晃一 議員

3 調査内容

東北SDGs未来都市サミット・シンポジウム
 ・視察 13:00~14:30
 ・サミット 15:00~16:45
 ・シンポジウム 17:00~19:00

4 事務局連絡先・会場

仙北市地方創生・総合戦略室
 〒014-1201
 秋田県仙北市田沢湖生保内字宮ノ後30
 電話 0187-43-3315
 FAX 0187-43-1300

5 その他

報告書

仙北市：東北 SDGs 未来都市サミット・シンポジウムについて

まず、13時に仙北市角館交流センターに集合し、挨拶、名刺交換後、バスで移動し、仙北市の担当の方の案内で、新潮社記念文学館と角館樺細工伝承館の施設見学を行い、施設見学後、角館交流センターに戻り15時より、第2回 東北 SDGs 未来都市サミットが開催された。サミットでは、開催都市である、仙北市の門脇市長挨拶の後、SDGsに関する各都市の取組みが発表された。まず、仙北市では、平成30年3月23日に、仙北市 SDGs モデル事業の提案内容をまとめ、「SDGs 未来都市等提案書」を内閣府へ提出。同年4月17日に地域課題解決の加速化と第2次仙北市総合計画に掲げる施策を着実に推進する為、市長を本部長とした、仙北市持続可能な開発目標 (SDGs) 推進本部を設置し、同年5月14日に第1回推進本部会議を開催し、持続可能な開発目標 (SDGs) について自治体の役割について情報共有し、仙北市として目標達成に向けた取組方針の検討を開始した。同年6月8日には、第1回 SDGs ワーキンググループ会議も開催し、同年6月15日に首相官邸にて、SDGs 未来都市認定証授与式に門脇市長が出席し、認定証が授与された。具体的な取組みとして、ゲストや講師による SDGs の解説と市内外の先進的な取組事例に学び、市民への理解を深めることと併せて、SDGs 未来都市に選定された地方自治体における取組の推進及び先行的なモデル事例として、全国的な周知を目的に、シンポジウム等を開催したとの事で、仙北市 SDGs 未来都市計画の推進として、①近未来技術による夢のあるまちづくり（・小学校でのドローンによるプログラミング学習・近未来技術を活用した事業創造モデルの確立）②「温泉×健康」による持続可能なまちづくり（・地域資源を利用したヘルスケア産業の創出・ヘルスケアツーリズムによるインバウンド誘客）③田沢湖再生の加速化（・湖畔の清掃や大学と連携した水質調査による環境修復）④IoTの導入による農業生産性の向上と耕作放棄地削減（・大規模ほ場へのセンサー、通信技術やドローンの導入による生産性向上）⑤水素エネルギーの活用による産業振興（・東北大学大学院環境科学研究科との連携による水素エネルギーの地産地活モデルを構築）が挙げられた。次に、陸前高田市の戸羽市長より、陸前高田市では、多様な主体との連携として、SDGs 推進プラットフォームの形成、木質バイオマスなどの再生可能エネルギーの活用促進、ダイバーシティ&多文化共生社会の実現に向けた取組みの説明があり、法政大学と SDGs 協定締結し、今後に向けた取組みとして、法政大学と連携し推進していくとの事であった。次に、東松島市の渥美市長より、東松島市の取組みとして、全世代に住みよいまちづくりとして、(スマート防災エコタウンやコミュニティ・スクール、生涯現役志向の取組み)、地方創生・人口減少対策として(私立高等学校の誘致等、子育て支援環境の充実、保育所等の民間活用、宮城オルレ奥松島コースによる通年観光の実装、矢本海浜緑地パークゴルフ場の開設)、普及啓発活動・民間の取組みとして(東松

島市 SDGs シンポジウムの開催、防災体験施設の運営、地域と連携した子ども食堂等)の説明があり、続いて、飯豊町の後藤町長より、飯豊町の取組みとして、大学、地元金融機関等の連携のもと、基幹産業である農業を基盤としつつ、新たな産業の創出と価値の創造が、交流と連携による化学反応をもたらすことを目指し、さらに、そうした流れがリノベーションに繋げることで、雇用の創出など経済的な自立を推進し、地域の持続性を確保していくとの事で、電池関連企業の集積を目指す「飯豊電池バレー構想」の推進、また、町内の資源を活用しながら、エネルギー・経済・資源が域内で循環し、持続可能な循環型社会の推進を進める目的で、主に木質バイオマスを活用した再生可能エネルギーの導入推進、また、昭和59年、日本で初めて町立の農村計画研究所を設立されたが、その農村計画研究所の再興と農山村の価値を見直す取組みの説明があり、最後に本市、郡山市の吉崎副市長より、SDGs 未来都市郡山、気候変動対応課題解決先進都市として、「全世代健康都市圏」の創造として、「健康」をキーワードに「経済」、「社会」、「環境」において、持続可能なまちづくりに向けた先導的取組みを実施。オープンデータを活用した広域医療等の分析(EBPM)及びICTを活用した健康寿命延伸対策(EBM)を進めることで医療・健康産業の集積、健康寿命延伸・医療費抑制、環境負荷の少ない快適な生活環境の確保を進める。また、産学金官労言士等の多様なステークホルダーとの連携のもと、医療・健康面におけるイノベーションから新たな医療・健康産業の創出により、「投資を呼び込むビジネス機会の創出(ESG投資)」「地域経済の活性化」に繋げるとの説明があり、SDGsの理解・普及・実践に関する取組みとして、フォーラムの開催や、内閣府地方創生SDGs官民連携プラットフォームへの参加、ワークショップの開催、ポスター、SNS動画、市政広報番組の作成等が挙げられた。最後に気候変動対応型SDGs未来都市の実現に向けて、平時からの災害に対する備え(産学官連携)として、令和元年台風第19号災害を踏まえ、「気候変動」を前提とした社会システムへの変更、法制・税制・財政、全ての制度設計を「気候変動対応型」にとの説明がなされた。各都市の取組み発表後、東北SDGs未来都市サミット宣言についてと郡山市提案による、気候非常事態宣言について説明があり、それぞれ宣言文が読まれ、4市1町の市長、副市長、町長が署名をし、次回の開催都市は飯豊町との事で第2回東北SDGs未来都市サミットが終了し、引き続いて17時より角館交流センター内だが、会場を移し、東北SDGs未来都市サミット・シンポジウムが開催された。シンポジウムでは、サミットで発表された各都市の取組み事例の紹介、日本青年会議所 少年少女国連大使 久米川華穂さん、カードゲーム「SDGs de 地方創生」公認ファシリテーター 今田裕美氏による基調講演、各都市の首長、副市長によるパネルディスカッションが行われ、最後に東北SDGs未来都市サミット宣言、気候非常事態宣言について共同宣言が行われ幕を閉じた。今回の東北SDGs未来都市サミット・シンポジウムに参加しての所感だが、人口減少社会、少子高齢化社会、気候変動による災害発生等、各都市共通の課題についてだが、4市1町で更なる連携強化を図るべきではと考える。実質的に具体的な施策(数値目標設定)の展開を迅速にかつ、実効性の伴う取組みを推進することで課題解決に繋がり、持続可能な社会の構築ができるものと考

える。また、本市でもそうだが、SDGsについては、まだまだ認知度が低いと感じる。SDGsを理解してもらうには、各都市共通課題、また、それぞれの都市における独自の課題とその課題を解決に導く施策、事業展開等を計画的に実行していくこと及び、この課題と解決方法を幅広い市民へ周知することで、SDGsへの理解も深まることと考える。その結果、実質的な持続可能な社会の構築に繋がると同時に、自然とSDGsの17のゴールへと導けるのではと考える。



秋田県仙北市議会
副議長 黒沢龍己

副議長室
〒014-1298
秋田県仙北市田沢湖生保内字宮ノ後三〇
TEL(0187)4310333
FAX(0187)4310334



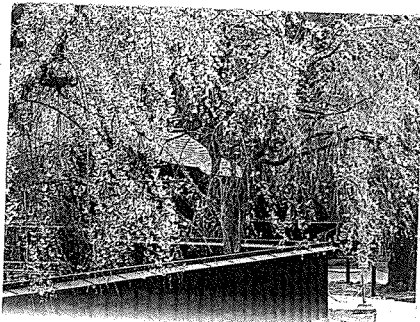
秋田県仙北市議会
議長 青柳宗五郎

議長室
〒014-1298
秋田県仙北市田沢湖生保内字宮ノ後三〇
TEL(0187)4310333
FAX(0187)4310334



秋田県仙北市
副市長 倉橋典夫

〒014-1298
秋田県仙北市田沢湖生保内字宮ノ後三〇
電話(0187)4310333
FAX(0187)4310334
E-mail



秋田県仙北市
議会事務局



事務局次長
高階 栄子

〒014-1298
秋田県仙北市
田沢湖生保内字宮ノ後30番地
TEL 0187-43-0334 FAX 0187-43-1665
URL <http://www.city.semboku.akita.jp/>
E-mail gikai@city.semboku.akita.jp

秋田県仙北市議会事務局
局長 三浦 清人

田沢湖庁舎 〒014-1298
秋田県仙北市田沢湖生保内字宮ノ後三〇
電話(0187)4310333
FAX(0187)4310334
E-mail: gikai@city.semboku.akita.jp



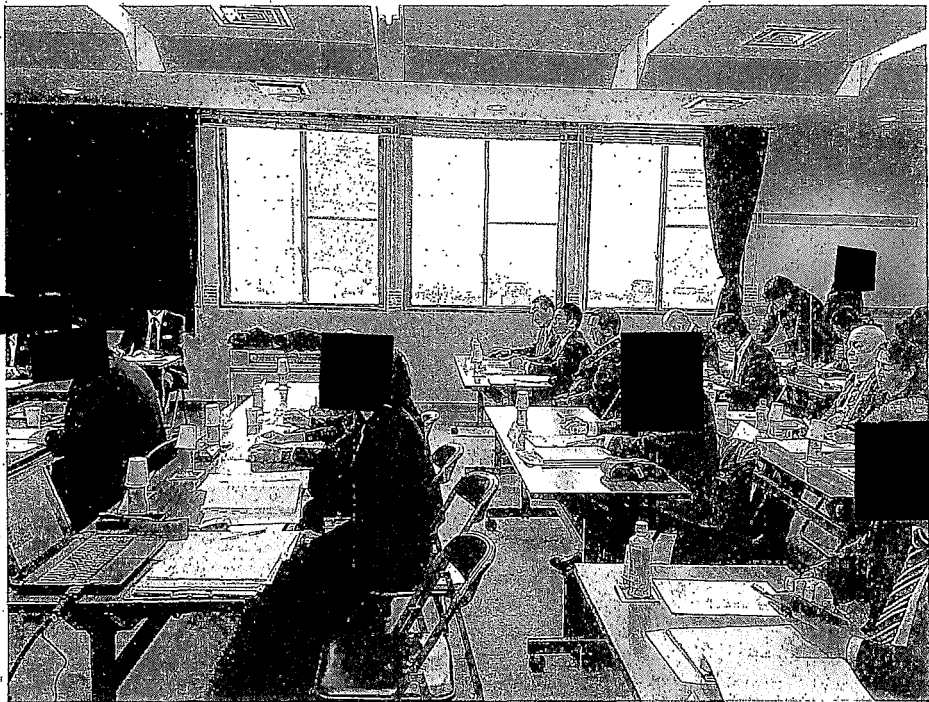
the most beautiful
villages
in japan

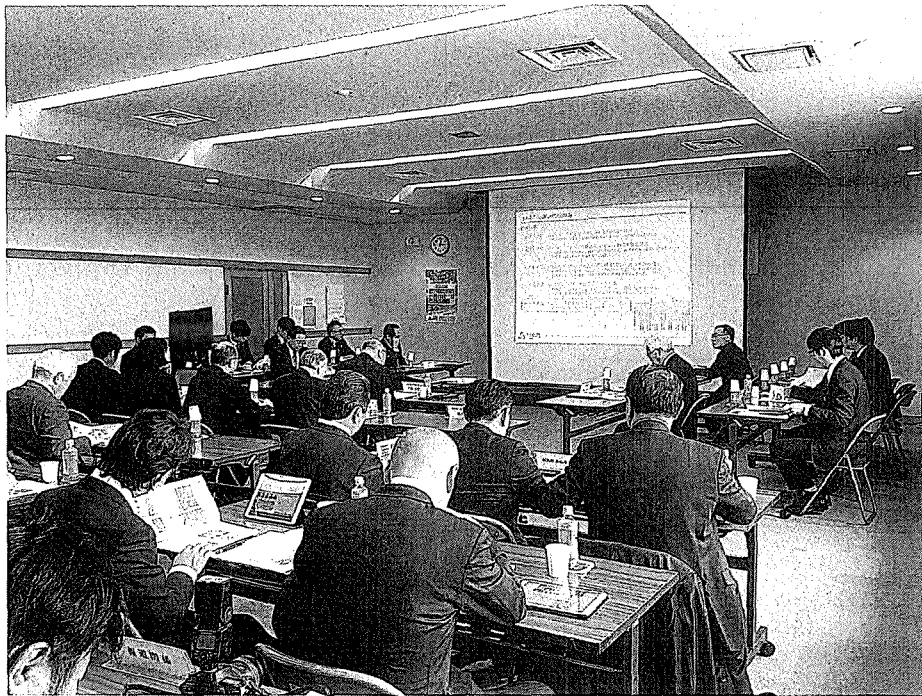
飯豊町議会



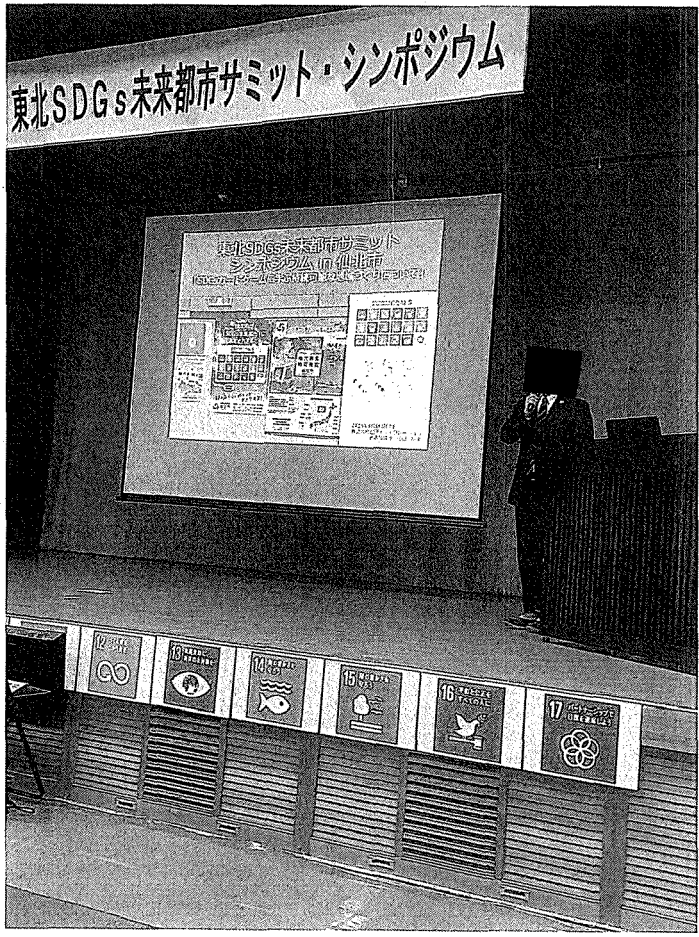
議長 菅野 富士雄

事務局
山形県西置賜郡飯豊町大字椿2888
電話 0238-87-0527 Fax 0238-72-2430
自宅









第2回 東北SDGs未来都市サミット

日時 令和2年1月16日(木)
15時00分～16時30分
場所 仙北市角館交流センター

次 第

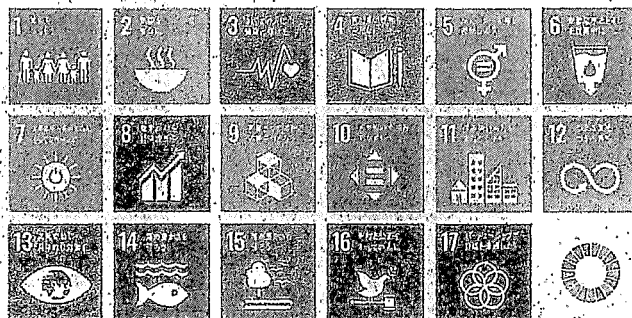
- 1 挨拶 仙北市長
- 2 SDGsに関する各都市の取組
・仙北市
・陸前高田市
・東松島市
・飯豊町
・郡山市
- 3 東北SDGs未来都市サミット宣言について
- 4 気候非常事態宣言について
・郡山市(提案都市)
- 5 署名
- 6 次回の開催都市について
- 7 その他

<配布資料>

- ・資料1 各都市の概要
- ・資料2 各都市のSDGsの取組
- ・資料3 気候非常事態宣言について(郡山市提案)
- ・資料4 気候非常事態宣言文(案)
- ・資料5 東北SDGs未来都市サミット宣言文(案)

東北SDGs未来都市サミット・シンポジウム SDGsに関する取組

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



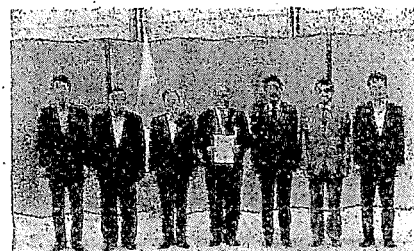
秋田県仙北市

19

仙北市SDGsの取組み

平成30年

- 3月23日 「SDGs未来都市等提案書」を内閣府へ提出
仙北市SDGsモデル事業の提案内容をまとめ、内閣府へ提出しました。
 - 4月17日 仙北市持続可能な開発目標（SDGs）推進本部を設置
地域課題解決の加速化と第2次仙北市総合計画に掲げる施策を着実に推進するため、市長を本部長とした推進本部を設置しました。
 - 5月14日 第1回仙北市持続可能な開発目標（SDGs）推進本部会議
持続可能な開発目標（SDGs）について自治体の役割について情報共有し、仙北市として目標達成に向けた取組方針の検討を開始しました。
 - 6月8日 第1回SDGsワーキンググループ会議
持続可能な開発目標（SDGs）について自治体の役割について情報共有し、仙北市として目標達成に向けた取組方針の検討を開始しました。
- 6月15日 SDGs未来都市認定証授与式に市長が出席
首相官邸にて、認定証を授与されました。



東北SDGs未来都市サミット宣言文

私たち、岩手県陸前高田市、宮城県東松島市、秋田県仙北市、山形県飯豊町、福島県郡山市の5都市は、東北地方から選定されたSDGs未来都市として、その理念の普及を広く図るとともに、経済・社会・環境の3つの側面を統合的に調和することの重要性を認識しながら、地域課題を先導的に解決し、様々な取組を発信していきます。

そして、東北から日本を盛り上げ、地方創生を図り、住み続けられるまちづくりに向け、緊密に連携することをここに宣言します。

1. 私たちは、持続発展可能な社会の実現に向け、情報を共有しながら、SDGsの達成に努めます。
2. 私たちは、SDGsの理解・普及と実践に努め、様々な主体とパートナーシップを図ります。
3. 私たちは、SDGsを行政運営に取り入れ、地域を活性化し、誇るべきまちを将来の世代に継承します。

2020年1月16日

岩手県陸前高田市長

宮城県東松島市長

秋田県仙北市長

山形県飯豊町長

福島県郡山市長

東北 SDGs 未来都市サミット

気候非常事態宣言

近年、我が国を含め全世界で様々な異常気象が観測されており、WMO(世界気象機関)は、一連の異常気象は、温室効果ガスの増加による長期的な地球温暖化傾向と関係していることを示しています。また、IPCC(気候変動に関する政府間パネル)は、温室効果ガスの増加には、私たちの生活や生産活動が大きく関与していることを報告しています。

このような現状に鑑み、私たち、岩手県陸前高田市、宮城県東松島市、秋田県仙北市、山形県飯豊町、福島県郡山市は、近年の異常気象が脅威であることを認識し、東北地方から選定された SDGs 未来都市における持続可能なまちづくりの一環として、相互に連携し、次の活動を含めた対策を講じることをここに宣言します。

1. ごみの排出抑制(リデュース)、再利用(リユース)、再資源化(リサイクル)、ごみの発生回避(リフューズ)を徹底します。
2. 省エネルギーの推進と併せて、再生可能エネルギーの利用を促進します。
3. 人や社会・環境に配慮した消費行動(エシカル消費)の普及を図ります。
4. 各都市の環境、課題に応じて、地球温暖化防止に資する取組を推進します。

2020年1月16日

岩手県陸前高田市長

宮城県東松島市長

秋田県仙北市長

山形県飯豊町長

福島県郡山市長



「気候非常事態宣言」の提案について

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

要旨

- ・長崎県吉崎市が、2019年9月に国内初の「気候非常事態宣言」を行う。
- ・SDGs未来都市に選定されている全国60自治体の他、日本政府や地方自治体に、「気候非常事態宣言」について連携を呼びかける。

(2019.11.26 毎日新聞より)

「気候非常事態宣言都市」

- ・地球温暖化などの気候変動を人類にとっての「非常事態」として、具体的な対策に取り組むことを宣言
- ・欧州を中心に広がり、23か国の1,000を超える自治体や各地の大学が宣言している。
- ・吉崎市の他、神奈川県鎌倉市議会が2019年10月に「気候非常事態宣言」を決議

吉崎市の宣言概要 ～気候非常事態宣言より～

①市民に対して、4Rの周知啓発に努める。

特に、海洋汚染の原因となるプラスチックごみについて、4Rの徹底に取り組む。

4R=Reduce(ごみの排出抑制)

Reuse(再利用)

Recycle(再資源化)

Refuse(ごみの発生回避)

②2050年までに市内で利用するエネルギーを再生可能エネルギーに完全移行

③森林の適正な管理により、温室効果ガスの排出抑制に取り組むとともに、森林、里山、河川、海の良好な自然環境の実現を目指す。

④日本政府や地方自治体に、「気候非常事態宣言」についての連携を呼びかける。

「気候非常事態宣言」の提案について

郡山市では、昨年10月の台風第19号により市内各所に甚大な被害が発生し、SDGsの目

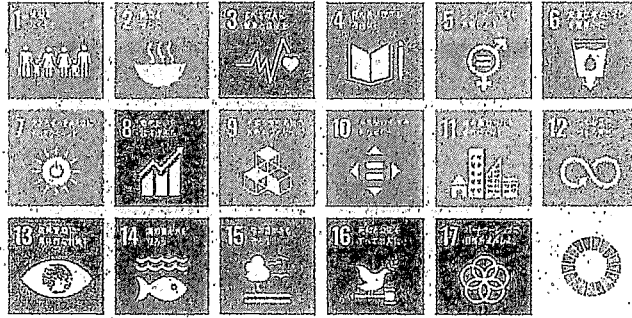
標(ゴール)13「気候変動に具体的な対策を」の重要性を一層深く認識したところである。

近年の自然災害は激甚化しており、もはや、社会システムをはじめ、法制・税制・財政等全て

の制度設計を「気候変動対応型」に変更する必要がある。

東北SDGs未来都市サミット・シンポジウム 各都市の概要

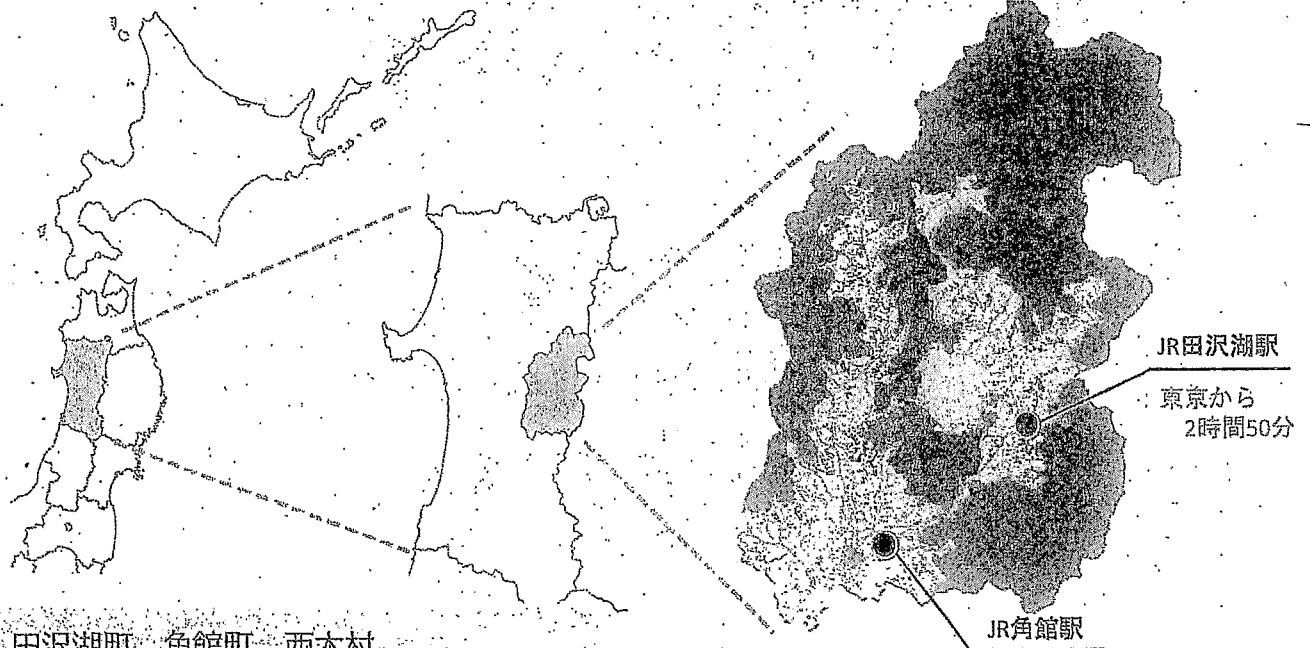
SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



秋田県仙北市

1

仙北市の紹介



田沢湖町、角館町、西木村

平成17年合併「仙北市」誕生

人口：25,857人 (10,584世帯) R1.12.31現在

市面積：1,093.56平方キロメートル

観光客数：年間約520万人

<財政> H30決算

歳入：20,838百万円

歳出：20,058百万円

<産業> 総生産額 (H27)

第一次：3,987百万円

第二次：14,057百万円

第三次：56,265百万円